

単元まるごと計画「あこがれの人を紹介しよう」（全8時間）

単元のゴール（can-do）：自分のあこがれの人（ヒーロー）について、その人が得意なことや人がらを He[She] is good at / He[She] is kind. で伝え合い、「なぜその人なのか」まで含めておたがいの大切な人を知り合う。

評価規準 3観点（国研参考資料の文型で作成）

知識・技能	Who is your hero? / My hero is / He [She] is good at / He [She] is kind. などの表現について理解しているとともに、あこがれの人について、その人が得意なことや人がらを伝え合う技能を身に付けている。
思考・判断・表現	おたがいのあこがれの人を知り合うために、その人が得意なことや人がらについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。
主体的に学習に取り組む態度	おたがいのあこがれの人を知り合うために、その人が得意なことや人がらについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとしている。

◎＝記録に残す評価（方法つき）。◎のない時間は指導に徹し、記録に残す評価は行わない。

単元の流れ 全8時間

時	紙面	主な活動	帯（毎時間のはじめ）	評価
1	SO	先生のヒーローの話を聞く（Who is your hero? に会う）	歌／チャンツ	記録なし
2	SO	職業の言い方＋Who am I? なりきりクイズ（活動1）	Small Talk①話題1（先生のヒーロー）	記録なし
3	YT	U3・U4で使った can から is good at へ＋人がら（kind / funny / brave）	歌／チャンツ	記録なし
4	YT	マイヒーロー・カードの下書き（活動2）＋書きWS①	Small Talk①話題2（学校のヒーロー）	記録なし
5	EC	ヒーローカードを仕上げ、ペアで練習（3文＋なぜ？）	歌／チャンツ	◎ 行動観察・カード点検（知技）
6	EC	ヒーロー紹介大会①（相手を替えて3人）→中間指導	歌／キーフレーズ暗唱	◎ 行動観察（思判表）
7	OH	世界の仕事・はたらく人の話を聞く（教科書OH）＋紹介大会②→おわりにヒーロー図鑑お披露目	歌／チャンツ	記録なし
8	OH	パフォーマンステスト（紹介＋Q&A）＋1年間の振り返り	なし——テストに使い切る	◎ テスト（知技・思判表）＋振り返りカード（態度）



45分の基本形と運用メモ

45分の基本形 毎時間この流れ（先生は上から順に使うだけ）

分	やること	使う教材
0-5	あいさつ・歌	—（教科書付属音源）
5-10	Small Talk／チャンツ	Small Talk台本①
10-15	職業のことばの練習	絵カード
15-17	めあての確認	—（黒板に型を掲示）
17-37	主活動 ※途中で中間指導	活動シート1～2
37-45	振り返り（1行）・あいさつ	振り返りカード（汎用）

時間が足りないときは、ここを削る（優先順）

- 1. なりきりクイズ（第2時）は前半8問でやめる。後半8問は朝の時間や雨の日の予備へ
- 2. 紹介大会は1人30秒・3人まで厳守（延ばすと第7時の本番②が消える）
- 3. OHの「世界の仕事」は聞いて1つ気づきを言えたらOKに圧縮してよい
- 4. 書きWS①の3ブロック目は宿題に回してよい（音声で言えていることが先）

準備物 印刷するだけ（準備5分）

- ☐ 絵カード（提示用1部＋なりきりクイズの出題用に班数分）
- ☐ 活動シート1（出題用・先生1部＋班に1枚）／活動シート2（人数分）
- ☐ 書きワークシート①（人数分）
- ☐ パフォーマンステスト式（先生用・第8時）
- ☐ 振り返りカード（汎用の型・単元名だけ書き換え）
- ☐ Unit 4「身近な人の紹介」の絵カード（father / mother / cook / sing / run fast など）——得意なことの語彙はこちらを流用すると新しく刷らずにすむ
- ☐ 画用紙またはA5用紙（ヒーローカードの清書用・第5時）

配慮が必要な子へ

- ・ヒーローは家族に限定しない（先生・コーチ・お店の人・友だち・地域の人・本の中の人でもOK）——家庭の事情に踏み込まない鉄則
- ・「思いつかない」子のために、先生が第1時で3人ぶんの例を示す（家族／学校の人／がんばっている人）。だれも決まらない子は「6年生のあこがれの先ばい」でも成立する
- ・He / She の選び分けに迷う子には、カードの名前らんに he か she を先に○で囲ませておく
- ・英語の文の数で評価しない。カードを見せる・ジェスチャー・絵で補うのも「伝える工夫」として同じ土俵で見る

先生へ（この単元の勘どころ）

- ・この単元の肝は「なぜその人？」。U3で出会いU4でHe/Sheに広げた can は事実、is good at + is kind は「その人らしさ」——先生モデルでも必ず理由を1つ添えて話す
- ・有名人を選ぶ子がいたら止めない。ただし「その人のどこがすごい？」を必ず聞き返し、外見や持ち物ではなく得意なこと・人がらに言葉を寄せる
- ・is good at は be動詞なので三単現の -s が出ない。ここでも文法説明はせず、音のかたまりで入れる（U4の He/She can と同じ作戦）